

平成31年度 第4回 高松圏域自立支援協議会 相談支援部会 議事録

日 時：令和元年7月18日（木）9：30～12：00

場 所：かがわ総合リハビリテーションセンター2F 研修室

出席者：

三木町 健康福祉課、障害者生活支援センターたかまつ、地域生活支援センターこだま、障害者生活支援センターあい、障害者地域生活支援センターほっと、障害者相談支援センターりゅううん、地域活動支援センタークリマ、支援センターこがも、相談支援事業所ライブサポートセンター、みき相談支援センター、障害者相談支援センターつなぐ、生活支援センターサンサン、発達支援相談事業所まつばら、相談支援事業所おりがみ、相談支援センターたまも、相談支援事業所夢、相談支援センターしのめ、支援センターキラキラ、自立ケアシステム香川、高松市社会福祉協議会障がい者相談支援センター、障害者相談支援事業所ミルキーウェイ、相談支援事業所ウェルネスサポート、相談支援センター昭和町、障害者相談支援事業所 かつが、高松市障がい者基幹相談支援センター中核拠点（25 機関）

議 題

1. 情報提供

小春日和：相談支援ナビットを開設されました。

2. 計画相談緊急時の対応について

いざという時の為に日頃から今の関係者で体制作りを検討しておく。

→児童のケースだと、緊急時ある程度は想定しているが、相談員が知らないところで緊急時が起きて進んでいたケースがあった。

3. 計画の終了時のフォローをどうするか？

検討部会で話し合ったフローチャートを基にグループワークをして意見を出し合う。

意見

- ・利用者様との関係が悪い時→行政か基幹どっちが軸？/地域拠点も拒否した場合は委託や中核の力を借りる。
- ・地域拠点の1年に1回の訪問は絶対か？関係づくりが難しいのでは・・・
- ・繋がる可能性のある機関への周知について、課題は周知のルートが出来ることによって責任放棄にならないか？
- ・就労のケースで知らない間に県外に家が変わっていた。相談員としては薄い繋がりでも良いので顔合せしたいが、どこへ繋げれば良いか？→行政へ
- ・基幹地域がケースを抱えすぎないか心配である。
- ・医療機関や保健センターにも周知が必要である。
- ・サービスが途切れるケースは年間で2～3件はある。

- ・報告書を提出する規定は有るのか？負担が大きいように感じる。
- ・A型から一般就労のケースなどは地域拠点に繋げやすい。
- ・介護保険に移行したケースはケアマネに任せっぱなしになる。
- ・引き継ぐときのケース会はサービスが無いと開きづらい

等の意見が出た。

4. 地域の課題等の情報提供・共有

- ・移動支援の事業所を探しているが、なかなか空きが無く見つからない。
 - 他の相談員も空いている事業所を探す際に苦慮している。
 - 見つけ方のヒント
 - ・ヘルパーになってくれる人を探してきて、事業所と契約し登録してもらい専属という形をとるのも一つ。
 - ・一覧の更新がタイムリーでない時が有る。84事業所もあり、一覧から探すのは大変である。
 - ・移動支援事業所の指定について、知的障がいの方を対象とする場合は特別な資格は要らないので、事業所に指定を取って貰うように促す。

5. GSV（小豆圏域から5名参加・事例提供）

今回は、全員で1つの事例を検討する。

→関係機関と本人の思いの調整をどうすれば良いか？

アドバイス

- ・本人の自覚をうながす為に支援を中断して見守る。
- ・本人と信頼関係を築く。
- ・本人の思いを関係機関に投げかけて、連携を密にする。
- ・100均などでバイトをしてみる。
- ・今できていることを関係機関で話し合う。
- ・居場所でありがみ教室をして作品をメルカリで販売する。
- ・母に本人のこれまでの情報を聞き取る。
- ・セカンドオピニオンに別の先生に診てもらう。などの意見が出た。

※アドバイザー：各グループから特色ある意見が出ていた。改めて柔軟な対応に気付かされた。

※小豆圏域から参加者の感想

・1人の自立に多くの人に関わっているケース。資源は限られてはいるが、色々な意見が聞けた。

・色々な意見が聞けたので、取り入れていけたらと思う。勉強になった。

6. 次回 令和元年8月15日(木) 9:30~12:00

場所：リハセンター 2階 第1研修室

以上